



Food and Agriculture
Organization of the
United Nations



World Health
Organization



2020年6月7日

世界フードセーフティーデー
(World Food Safety Day)

フードセーフティー はみんなの仕事



世界フードセーフティーデー2020へのガイド

さあ、はじめよう!

フードセキュリティ、ヒトの健康、経済発展、農業、市場へのアクセス、観光業、持続的な発展に貢献する、食品由来リスクの予防・検知・管理に注意を向け行動を起こすために、2020年の6月7日には、2回目となる世界フードセーフティデー(WFSD)をお祝いしましょう。

テーマ

“フードセーフティはみんなの仕事”

安全で、栄養があって、そして十分な量の食品への権利が、全ての人にはあります。今日でも、全世界では10人にほぼ1人が汚染された食品を食べて病気になっています。食品が安全でなければ、子供達は学ぶことができません。大人達は働くことができません。人々の発展はあり得ません。持続可能な開発のための2030アジェンダに示された17の目標のうちの2つである、人の健康増進と飢餓の終焉に、安全な食品を欠かすことはできません。

食品が安全でなければ、フードセキュリティはあり得ません。また、食品のサプライチェーンがより複雑になっている世界では、食品の安全性に悪い影響を与えるいかなる出来事も、公衆衛生や貿易そして経済に負の影響を与えます。

それにもかかわらず、食品の安全はすっかり当然のことだと思われています。食中毒になるまでは、大抵それは目に見えません。安全でない食品(有害な細菌やウイルス、寄生虫あるいは化学物質を含む食品)は、下痢からがんに至るまで、200以上の病気を引き起こします。

世界フードセーフティデーは、私たちが食べる食品の安全を確実にするために、よりいっそう努力するためのきっかけです。

食品の生産、加工、販売、あるいは調理のどれに関わるかに依らず、食品を安全に保つために、あなたにできることがあります。フードチェーンに携わるみなさん全員に、フードセーフティのための責任があるのです。

世界フードセーフティデー(WFSD)の2回目の式典のために、フードセーフティへの意識を高めることそして、フードシステムに関わる全ての人に果たすべき役割があることを強調することが、全ての利害関係者には求められています。

消費者や、産業そして地球自体に影響する、気候や、グローバルな食品生産と供給のシステムに今起きている変化に立ち向かうためには、現在そして未来も、みんながフードセーフティについて考えることが必要です。

フードセーフティの持続した変化のためにできること

2019年のキャンペーンの成功に引き続き、フードセーフティを確実にするためにみんなができることに光を当てて、今年も意識を高めて行動を促しましょう。

農場から食卓まで(farm-to-fork)の連続体における、以下のプレイヤー全員に参加を呼びかけています。FAO、WHO、Codex加盟国、そしてパートナー達(食品を生産、加工、輸送、貯蔵、供給、販売、調理、提供そして消費する全ての人達)、親善大使、ソーシャルメディアインフルエンサー、一般の人達、特に若者。

1. 食品が安全であることを確実にしよう

すべての人々のために、政府は安全で栄養のある食品を保証しなければなりません。

各国政府には、私たちみんなが、安全で栄養のある食品を食べられることを保証するための不可欠な役割があります。政策立案者は、公衆衛生、家畜衛生、農業そしてその他の分野の間で複合的なコラボレーションを促進している、持続可能な農業と食品システムを奨励することができます。フードセーフティの当局は、非常事態を含むフードチェーンの全体を通じて、フードセーフティのリスクを管理することができます。

各国は、Codex食品規格委員会(Codex委員会)が設定した国際規格に準拠することができます。

3. 安全に保ちましょう

事業者は、食品が安全であることを確実にしなければなりません。

予防的管理によって、フードセーフティの問題の大部分に対処することができます。(加工から小売りに至るまでの)食品事業に関わる皆さんは、一次生産から最終的な消費に至るまで、フードセーフティにとって重大なハザードを同定、評価、管理するシステムであるHACCPのようなプログラムへの適合を確実にしなければなりません。加えて、優れた加工、保管、保存により、栄養価と食品の安全性が維持され、ポストハーベストの損失が減少します。

5. 安全のためにチームを組もう

フードセーフティとは、責任を分担することです。

フードセーフティについて責任を分担する多様なグループ(政府、地域経済団体、国連の組織、開発局、貿易組織、消費者と生産者のグループ、学術及び研究機関、民間企業)は、グローバルに、地域的に、そして局所的に、私たちの全てに影響する課題と一緒に取り組まなければなりません。政府内の分野を超えたまた、国境を超えた、さまざまなレベルでのコラボレーションが必要です。

2. 安全に育てましょう

農業と食品製造者は適正規範を採用する必要があります。

慣行農業は、今日のために、安全な食品の十分な供給を地球規模で確実にするとともに、気候の変動を緩和し、明日のための将来の環境への影響を最小にしなければなりません。状況の変化に適応するように、食品生産のシステムは変わります。そのために農業従事者は、食品が安全であることを確実にするために、潜在的なリスクを取り扱う最善の方法について注意深く考えなければなりません。

4. 安全に食べましょう

全ての消費者の皆さんには、安全で健康的で、そして栄養に富んだ食品への権利があります。

消費者には変化を引き起こす力があります。自分達自身のために健康的な食品を選択するために、そして地球のために持続可能な食品システムを支援するために、消費者は権限を持つ必要があります。フードセーフティの複雑さを考えると、自分らの食品選択に関連した栄養や疾病のリスクに関するタイムリーで明確かつ信頼できる情報に、消費者はアクセスする必要があります。安全でない食品と不健康な食事の選択は、世界的な疾病負荷を増大させます。

WFSDへの参加の仕方

WFSDイベントを組織する

一般市民を対象に、#foodsafetyのメッセージをつけた、コンサート、フェスティバルやフェア、試食あるいは実演調理といった様々な活動を組織して、WFSDをお祝いしましょう。政治指導者や教育者、科学者や農業従事者が参加する公開講座やパネル、円卓会議を主催することもできます。それらのイベントでは、参加を促すために質疑応答のセッションを行ったりします。社会的あるいは文化的なイベントも又、聴衆にたどりつき、言葉を広めるためのプラットフォームを提供する可能性があります。

若い世代をひきこむ

学校、青少年センターあるいは青少年イベントでの#foodsafetyの活動に生徒達を参加させましょう。このようなやり方で、若い人達はフードセーフティーについて学び、単純な日常行動を変えることによって、食品由来疾病の危険を回避することができるというメッセージを受け取ることができます。

レクリエーションとスポーツ

#foodsafetyを促すために、走ること、マーチングやウォーキング、さらにダンスやフィットネスのイベントを企画しましょう。自ら行動し、また役割を果たすように他の人への呼びかけにコミットするように、コミュニティへの参加を勧めましょう。

メディアを巻き込む

トークショーや公開討論、記者会見やラジオあるいはテレビの視聴者参加番組に参加して、WFSDのメッセージを拡散しましょう。



WFSDのビジュアルを利用する

ポスターをダウンロードして共有したり、あなたのウェブサイトには、WFSDのパナーやWFSDウェブサイトへのリンクと一緒にアップデートしたりしましょう。無料のグラフィックを使って、Tシャツや、キャップ、マグカップなどのガジェットを作ることができます。イベントや活動を通じて、できるだけWFSDのビジュアルを利用することそして、ここにあるWFSDの背景画像あるいはイベントパナーをダウンロードすることを覚えておいてください。

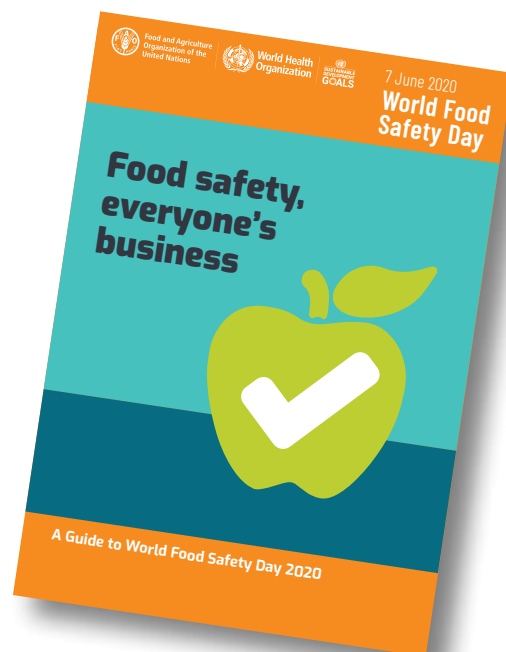
言葉の拡散

#foodsafetyの情報を使って、聴衆に知らせ、教育し、携わってもらいましょう。デジタルチャンネルで無料素材を共有し、#WorldFoodSafetyDayキャンペーンに参加しましょう。#safefoodや#foodsafetyに関するメッセージを増幅させるために、食品セクターの地域的なまた国レベルのデジタルインフルエンサー(ブロガー、俳優、人気有名人、写真家、料理家、専門家)を特定し、携わってもらいましょう。実施中の#WorldFoodSafetyDayツイッターキャンペーンに参加し、写真、メッセージ、ビデオを投稿して#foodsafetyへの感謝を表しましょう。

コミュニケーションの素材

以下の素材のデザインは、国連の6つの公式言語で提供されています。

- WFSOポスター
- ウェブバナー
- ソーシャルメディア “Trello Board”
- イベントの背景画像とバナー
- ガジェット – Tシャツ、キャップ、マグカップ、エプロン



キーマッセージ

フードセーフティーがなければ、フードセキュリティはない

もし安全でなければ、それは食品ではない。全ての人々が、全ての時に、活動的で健康な生活のために必要な食事に適した食品に、物理的又経済的にアクセスできる場合に、フードセキュリティは達成されます。実際に、フードセーフティーは、フードセキュリティの4つの側面—入手可能性、アクセス、利用、安定性—のうちの、利用を構成する重要な要素です。

安全でない食品は、ヒトの健康と経済に甚大な被害を及ぼします

世界保健機関は、細菌、ウイルス、寄生虫、毒素あるいは化学物質より汚染された食品を食べることを通じて、毎年6億人以上の人々が病気になり42万人が亡くなっていると推定しています。経済的側面に関しては、世界銀行によると、低中所得国だけでも、安全でない食品によって毎年約950億ドルの経済的損失のコストがかかっています。安全でない食品は、貿易も制限します。

フードセーフティーは、生産から消費かけての責任の分担

フードセーフティーの責任はみなさんにあり、だからこそ、みなさんの仕事です。今日、これまでにないくらいたくさんの量で食品は加工され、より遠くに運ばれます。優れたガバナンスと規制と同様に、フードサプライチェーンにおける全ての関係者の幅広いコラボレーションと貢献がフードセーフティーにとって重要です。

持続可能な食品システムへの投資は報われます

安全な食品によって栄養の適切な摂取が可能になり、長期間に亘るヒトの成長が促進されます。安全な食品の生産は、特に地方における経済発展と貧困緩和をすすめる市場へのアクセスを可能にすることと生産性によって、持続可能性を改善します。

“ワンヘルス”アプローチの実践がフードセーフティーを改善します

ヒトの健康は、家畜の健康と環境につながっています。直接接触あるいは食品、水、そして環境を介して動物からヒトに感染可能な病原性微生物は、公衆衛生や社会経済的な幸福度に影響を与えます。食品製造者、学術領域、専門家、非政府組織また国際組織は政府とともに、抗菌剤耐性や、汚染された土壌や水に接触する結果として果物や野菜に付着するあるいは家畜由来食品に付着する病原性微生物のようなフードセーフティーのリスクと戦うことができます。

安全な食品を推進するためのグローバルな取組を、FAOとWHOは支援しています

WHOが安全でない食品に関連する公衆衛生上の脅威へのグローバルな予防、検出そして対応を促進するのに対し、FAOは食品生産チェーンに沿ったリスクの予防、管理そして対応について加盟国を支援しています。両組織は、消費者の当局への信頼と安全な食品の供給に対する信用を確実にするために仕事をしています。お互いに補完し合う義務を通じて、FAOとWHOによる長期間にわたるパートナーシップは、グローバルなフードセーフティーを支援し消費者の健康を保護するための様々な課題をカバーしています。

Codex食品規格は、健康を保護し貿易を促進する助けになる

Codex食品規格委員会(Codex委員会)は、FAOとWHOによって管理されており、科学に基づく、食品規格、ガイドライン、行動規範を策定しています。これらのCodex文書は、汚染物質、衛生的な取組、表示、添加物、検査と認証、栄養、動物用医薬品と農薬の残留物を取り扱うことにより、食品の安全性と品質を確実にします。政府が国際規格を採用することによって、農業従事者と生産者は、グローバルな食品市場へのアクセスを獲得するのと同時に、消費者の安全な食品への要求に合わせる事が可能になります。

#SafeFood #FoodSafety #WorldFoodSafetyDay



国連はフードセーフティを 認めています

2018年12月20日、国連総会は、世界フードセーフティデーを宣言する 73/250 決議を採択しました。

2019年から、毎年6月7日は、安全な食品によってもたらされる無数のメリットをお祝いする日になりました。

フードセーフティへの取組強化に関する決議案は、2020年5月に開かれる世界保健総会で採択される見通しです。



正確な情報

世界中で毎年、6億人—ほぼ110人に1人—が汚染された食品を食べた後に病気になり、42万人が亡くなっていると推定されています。

5歳以下の子供が、食品由来疾病負荷の40%を占めており、毎年12万5千人が亡くなっています。

食品由来疾病は、通常感染性または有毒性であり、汚染された食品あるいは水を介して体に取り込まれた細菌、ウイルス、寄生虫あるいは、化学物質によって引き起こされます。

食品由来疾病は、ヘルスケアシステムに負荷をかけ国の経済や観光、貿易に悪影響を及ぼすことで、社会経済の発展を妨げます。

食品の貿易額は1.6兆ドルであり、世界の年間総貿易額の約10%に当たります。

最近の推定は、安全でない食品の影響が、毎年生産性を低下させることによって、中低所得国に約95億ドルの損失を強いていることを示唆しています。

安全な食品は、よりよい健康とフードセキュリティのためだけでなく、生活、経済発展、貿易そして各国の国際的な評判にとっても重要です。

気候の変化は、食品の安全性に関するハザードの流行と地理的な発生の変化とに関係しています。

抗菌剤耐性菌は、ヒトと動物との直接接触を介してあるいは、フードチェーンと環境を介して伝播する可能性があります。

毎年、抗菌剤耐性感染症のために、世界中で70万人のヒトが亡くなっていると推定されています。

食品と農業分野における適正衛生規範が食品由来疾病の出現と拡大の減少を助けます。

安全でない食品による広範囲な影響を理解するためには、よりよいデータが必要です。

フードセーフティの教育は、情報に基づき健康的な選択するために消費者の役に立ち、より安全な食品供給の推進につながります。

本文書は、国際連合食糧農業機関(FAO)及び世界保健機関(WHO)により出版された“Food safety, everyone's business”を、厚生労働省の研究事業*の一環として日本語に翻訳したものである。原文と翻訳に相違がある場合は、原文が優先される。

*令和2年度 厚生労働行政推進調査事業費補助金(食品の安全確保推進研究事業)「食品行政における国際整合の確保と食品分野の国際動向に関する研究」(研究代表者: 渡邊敬浩)

#WORLDFOODSAFETYDAY

www.fao.org/world-food-safety-day

www.who.int/world-food-safety-day

World-Food-Safety-Day@fao.org



Some rights reserved. This work is available under a CC BY-NC-SA 3.0 IGO licence